

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)  
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Impact of maternal smoking and secondhand smoke exposure during singleton pregnancy on placental abruption: analysis of a prospective cohort study (the Japan Environment and Children's Study)

和文タイトル:

単胎妊娠中の母親の能動喫煙および受動喫煙が常位胎盤早期剥離リスクに与える影響: 前向きコホート研究(エコチル調査)

ユニットセンター(UC)等名: 宮城 UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMC open

年: 2025

DOI: 10.1136/bmjopen-2024-089499

筆頭著者名: 軽米(森)向日留

所属 UC 名: 宮城 UC

目的:

妊娠中の母親の能動喫煙および受動喫煙が、常位胎盤早期剥離のリスクに与える影響を評価し、発症リスクと集団寄与危険割合(PAF)を検討する。

方法:

エコチル調査より、2011~2014年に登録された妊婦81,974例を対象に解析。妊娠中の能動喫煙(喫煙本数)と妊娠中の受動喫煙(ばく露された頻度と時間)に関するデータを自己記入式質問票で収集し、常位胎盤早期剥離との関連を修正ポアソン回帰モデルで評価した。

結果:

妊娠中に11本以上喫煙した母親は常位胎盤早期剥離のリスクが有意に上昇した(調整リスク比: 2.21, 95%信頼区間: 1.21-4.06)、PAFは1.90%だった。非喫煙者において、妊娠中の受動喫煙ばく露が4~7日/週かつ1時間/日以上の場合もリスクが上昇し(調整リスク比: 2.34, 95%信頼区間: 1.29-4.28)、PAFは1.89%だった。喫煙妊婦においても、妊娠中の受動喫煙ばく露が同程度の場合、リスクが上昇し(調整リスク比: 2.21, 95%信頼区間: 1.30-3.76)、PAFは2.29%だった。

考察(研究の限界を含める):

本研究では母親の能動喫煙および受動喫煙のばく露量が多い場合、常位胎盤早期剥離のリスクが増加することが示された。喫煙による、胎盤灌流不全や血管損傷が原因と考えられる。また、母親の能動喫煙および受動喫煙は、常位胎盤早期剥離の発症に寄与する可能性が示され、妊娠中の喫煙および家庭や職場環境における受動喫煙ばく露管理の重要性が示唆された。母体と胎児双方を守るための包括的な禁煙対策や受動喫煙回避の対策が必要である。

結論:

母親の能動喫煙および受動喫煙は常位胎盤早期剥離のリスクを有意に増加させることが示唆された。禁煙支援および受動喫煙防止策を強化することで、母親および胎児の健康改善が期待される。